

# 地域活性化 京都府福知山市 「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 81 山本晋也

## 筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

## ウサギが野に遊ぶごとく 絵付けに夢中になって

そういえば  
前の住人が残っていた陶芸用電気窯が…  
山本家ただひとりの「地元民」である長女の絵が  
器の上でも躍り始めた

来 年のことを言うとして  
鬼が笑うと言いますが

気がつけば今年も残り2カ月。  
年が明ければ我が家唯一の

「地元民」である長女が

待ち焦がれた年女なんだそう

で鬼が笑う前に本人がニコニコ笑っ

ています。

ということ

あれからもう12年も経つのかと

東日本大地震もあった

長女が生まれた年のことを

いろいろ思い出し



展示の様子。50点を超える作品数となり  
なかなか見応えがありました。

時間の流れと  
子供の成長の早さに驚きつつ  
嬉しいような寂しいような  
ちよつと複雑な  
心境になりました。

家族5人で移住したのは14年前。

その2年後に長女が生まれたので

今は6人。

僕と家内は京都生まれの京都育ち

なので移住者。

長男次男三男は京都生まれの三和

育ちなので半移住者。

長女の元氣は三和生まれの三和

ちなので地元民。

長女が「唯一の地元民」というの

はそういうことです。

まあ14年もいると

もうすっかり馴

染んでしまっし

地元で育った若

い子たちが

逆に都会に移住

してしまうので

どっちが地元で

何が移住者なの

かよくわからな

くなってしま

ますが

ネットで世界中

が繋がっている

今を考えると

そういう区別は  
子たちが大人になった頃には  
もう無くなっていくかもしれませ  
んね。

さて来年は卯年。

兄貴たちと一緒に

野山を駆け回って遊ぶのも好きだ

ったのですが

なぜか本を読んだり絵を描いたり

縫い物をしたりという

室内の遊びが大好き。

ことに絵を描きはしめると

呼びかけても返事をしないくらい

熱中していました。

本もよく読むから

絵にはストーリー性もあって

なかなか面白いので

描いたものは小さな頃から

一枚残らず残してあります。

自分の干支でもあるせいか

その絵の中に登場する動物は

ウサギが多く

最近はそのウサギに服を着せたり

ハイヒールを履かせたりと

登場するキャラクターごとに

オリジナルテイーも出てきて

紙に描いているだけではちよつと

もったいないような気がして

いろいろ考えていたところ

幸い僕らの今住んでいる家に



描き出すと夢中で、話しかけても返事がありません。



三男コーヒー用にデザインされたマグカップにもウサギが登場

なく  
マグカップだけで  
パスタ皿やラーメ  
ン鉢など  
いろいろ楽しみな  
がら作るうち  
作品の数も結構増  
えてきて  
家族が眺めている  
だけではもったい  
ないし  
長女も将来  
絵本作家を目指し  
てみようかなんて  
目標もできたので



当日のメニューの試食も兼ねて展示会に向けての打ち合わせ。  
みんな珍しく真剣な顔（笑）。

陶芸をしていた前の住人が残して  
いった  
陶芸用の電気窯があったのを思い  
出しました。  
**本**格的な釉薬と絵筆を使って  
の絵付けは  
子供にとってはちょっとハードル  
が高いのですが  
いろいろ調べてみると  
最近は手軽に描けるサインペンの  
ようなものや  
ハサミで切って貼り付ける  
色紙のような釉薬もあり  
800℃以上に温度の上がる窯が  
あれば  
素人でも手軽に陶芸作品作りがで

きるという情報を得て  
早速注文。  
試しに長女にやらせてみたところ  
これがバツチリ。  
家にあった電気窯もともとプロ  
が使っていたものだったので  
出来上がった陶器のクオリティも  
高いせいか  
長女はすぐ夢中になって  
楽しい楽しいと  
次々に作っていました。  
そのうち自分たちが家で使うだけ  
でなく  
三男が取り組んでいるコーヒーの  
ラベルやマグカップなどにも  
長女のデザインを取り入れたり

じゃあ一度まとめて  
多くの人に見てもらおうかという  
ことで  
農場のレストランをギャラリーに  
見立て  
展示会を開催しました。  
展示会までの宣伝  
**展**覧会当日のコーヒーや  
ジビエを使った料理は  
兄貴たちが担当し  
作品の展示は父の担当。  
生花は母と長女が担当。  
いざ他の人に  
作品を見てもらおうとなると  
自分たちだけで  
眺めて楽しんでいるのとは違い  
準備は本当に大変でしたが  
ある意味  
僕たちがこちらへ来て過ごした  
14年間で  
ぎゅっと詰め込んだような  
素晴らしい一日となり  
来場いただいたお客様にも  
とても喜んでいただいたようで  
とても嬉しかったです。  
次の12年  
我が家のウサギが野に遊ぶごとく  
笑顔でさらに伸び伸び跳躍でき  
よう  
家族みんな楽しんで応援してい  
きたいと思えます。